



どれどれ  
秋田市の環境は？



## ダイオキシン類のおもな調査結果(平成12年度)

(1pgは1兆分の1g)

調査対象	測定地点	測定結果	環境基準
大 気	一般環境	0.062 pgTEQ/m <sup>3</sup>	0.6pgTEQ/m <sup>3</sup> 以下
	発生源周辺	0.086 pgTEQ/m <sup>3</sup>	
水 質	河 川	0.48 pgTEQ/ℓ	1 pgTEQ/ℓ以下
	海 域	0.13 pgTEQ/ℓ	
土 壤	一般環境	0.80 pgTEQ/g	1,000pgTEQ/g以下
	発生源周辺	2.1 pgTEQ/g	

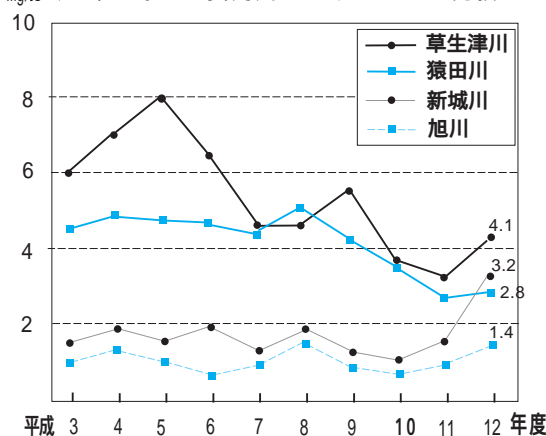
TEQ=毒性等量(ダイオキシン類の中で最も毒性が強い物質の量に換算して評価したもの)

測定地点	調査対象	測定地点
【大 気】	一般環境	土崎港北
	発生源周辺	焼却炉が近くにある御所野元町
【水 質】	河川	新城川・旭川・太平川・猿田川・草生津川
	海域	秋田港沖3地点
【土 壤】	一般環境	16地点
	発生源周辺	工場地帯、産廃処理施設、焼却炉などが近くにある16地点

平成十二年一月に施行された「ダイオキシン類対策特別措置法」の規定により、秋田市では環境中のダイオキシン類の調査を、大気年四回、水質、土壌は年一回行っています。平成十二年度の測定値は、いずれも安全の目安となる環境基準を満たす結果となりました。大気と土壌では、発生源周辺の数値が一般環境地点よりやや高く、また水質調査の河川では、湯水など水量の影響を受けやすい猿田川、草生津川の数値がやや高い傾向にあります。発ガンの可能性があるダイオキシンの発生の原因は、ごみの野焼きや焼却炉の不完全燃焼などです。ごみは正しく処理しましょう。

ダイオキシンをなくすため、ごみの処理は正しく

## 過去10年の主要河川におけるBODの比較



市内を流れる十七河川、二十九地点で水質汚濁の調査を毎月行っています。BOD(生物化学的酸素要求量)は、河水や排水などに有機物汚濁物質がどの程度含まれているかを示すものです。この数値が大きいほど水が汚れており、3ミリグラム/リットル以下で鮎や鮭が遊上すると言われます。BODの高かった草生津川も下水道の整備などでここ数年、きれいになってきているといえます。平成十二年度の値が前年度より高いのは、夏期に河川の水量が減少し、自浄作用が低下したためと考えられます。わたしたちが出す生活排水もBOD増加の原因の一つです。食べ残しやムダな油を流していませんか。

河川に影響を与える生活排水の改善を

## おもな地点の大気の測定結果(平成12年度)

(ppmは100万分の1の濃度)

測定地点	二酸化いおう	浮遊粒子状物質	二酸化窒素
環境基準	0.04ppm以下	0.10mg / m <sup>3</sup>	0.06ppm以下
山王(市役所)	0.001ppm	0.020mg / m <sup>3</sup>	0.016ppm
土崎(土崎支所)	0.004	0.019	0.016
新屋(新屋支所)	0.018	0.003	0.011
太平	0.002	0.015	—
茨島	0.004	0.030	0.023

数値は、毎日の調査結果の平均値から算出した値

大気環境測定データがインターネットでもご覧になれます。  
<http://www.city.akita.akita.jp/city/ev/pl/data/default.htm>

大気汚染の調査は、市内十一か所、二十四時間体制で行っています。呼吸器疾患を引き起こす二酸化いおう、小さなごみやほこりの浮遊粒子状物質、光化学スモッグの原因である二酸化窒素。発生の原因は、石油、石炭などの燃焼や自動車の排ガスです。国道が交差し、工場が密集する茨島地区は、環境基準内であるものの他の地区よりやや高い数値ですが、近年は、周辺工場の環境に配慮した対策効果もあり、徐々に改善されてきています。自動車の排ガスについては、特に冬期の渋滞がいつそう大気を汚しているようです。アイドリングの停止、公共交通機関の利用など、ちょっとした心がけが必要です。

車社会の現代だからちょっとした配慮が必要